

試験日	2025 年 1 月 29 日
入試区分	一般選抜 一般入試 I 期 A 日程
科目	国語

設問一

第一問は、現代文の論理的文章についての問題である。今回は馬場基「荷札が語る古代の税制」を題材とした。荷札木簡の分析を通して、奈良時代の貢納制度や地方行政の役割、さらに帳簿による支配と現実の生産体制の関係を論じた文章である。

本文では、若狭国の塩荷札の事例から「地名と産地が一致しない理由」を説明し、伊豆国の荷札の追記分析から「荷札作成の過程と郡の役割」を明らかにしている。これらを踏まえ、筆者が示す古代国家の特徴（帳簿による個別支配と現実のズレ、それを媒介する木簡の役割）を、因果関係や対比関係に注意しながら正確に読み取れるかを問うことを狙いとした。また、接続語の適切な補充や本文の要点把握に加え、漢字・語彙・熟語構造・同音異義語などの基礎的知識を問う設問も設け、読解と知識の両面から総合的な国語力を測る構成とした。

設問二

第二問は、現代文の論理的文章についての問題である。今回は中村羊一郎『イルカと日本人』を題材とし、イルカ追い込み漁をめぐる倫理的批判の背景と、日本人が歴史的にイルカと関わってきた実態を論じた文章を扱った。

本文は、水族館・国際団体による規範・映画による批判といった現代的状況を提示した上で、イルカ漁やイルカ食が日本各地で長期にわたり行われてきたこと、さらにそれが民俗・地域社会の仕組みとも結びついていたことを述べる。筆者は、感情的・一方的な批判ではなく、歴史的事実を踏まえた冷静な議論の必要性を主張している。

この文章を通して、筆者の論旨（批判の背景にある価値観の構造と、議論に必要な前提）を適切に理解できるか、具体例（寄り鯨や三井楽の出来事）が本文全体の主張にどう結びつくかを読み取れるかを問うことを狙いとした。あわせて、漢字・語彙・慣用句・熟語の構成などの基本的な知識を問う問題を設け、文章理解を支える言語知識も確認できるようにした。